

四、平家岩と石鍋

南蔵院境内の奥、不動の滝周辺は昔から平家岩と名付けられているのを、みなさんご存知でしょうか。

この辺りは鬱蒼と樹木が繁り、見上げると奇岩が重なり合って洞窟になっています。昔は人を寄せつけぬ難所だったようで、その幽玄な雰囲気があったかも平家落人伝説に結びつき、平家岩と名付けられたのもうなずけるような気がします。

江戸時代の『筑前国統風土記拾遺』にもこの平家岩周辺の様子や平家落人伝説のことが紹介されています。

現在では通路が整備され、所々に置かれた石仏を一巡りしてお参りできるようになっていますが、平家岩の前に立つとその幽玄さは変わりません。

この平家岩の洞穴を通り抜け、左に回り込んだ北側には、大久保に至る急な山道があり、その入り口

近くに石鍋を彫り採った跡があります。長い年月を経て木の根に抱え込まれたその巨岩には、中世の石工の鑿跡（うご）を見ることが出来ます。石鍋は当時の人にとって「牛一頭鍋四個」と云われたほどに貴重品だったようです。

若杉山からも幾つか石鍋が出土していますが、二〇〇二年に大和の森遊歩道内にある七又杉の近くで未完成の石鍋が見つかりました。町の歴史民俗資料室に展示されていますので、ご覧になって下さい。



平家岩石鍋跡